

## 深夜徘徊の旅



「深夜の東京ってかっこよくね」。なんとなくそう思ったので夜中に徘徊することにした。スタートは眠らない街、新宿。そしてゴールは眠る街、大手町。なんか逆ような気がする。じゃあ行こう。21時過ぎに歩き始める。新宿を出て、代々木、原宿、渋谷と有名な街を通る。若者が騒いでいて活気がある。密回避のため深夜に歩いているのに、これじゃあ意味がない。繁華街はすぐに抜けて次は恵比寿、目黒、五反田。24時過ぎの住宅街は人通りが少なく、坂もなだらかで歩いていてとても心地がいい。そして、大崎、品川、高輪ゲートウェイ。もう25時だったので道路脇には客を待つタクシーの行列。歩き続けると、東京タワーが見えてくる。田町と浜松町を過ぎると大通り、新橋、そして有楽町。進むにつれてビルが格式高くなっていく。26時を回る頃、高層ビル群と、都心とは思えない広場が見えた。終点、東京駅。総距離23キロ。5時間かかってようやく着いた。で、この後どうするよ？



二〇二一年もコロナ禍は予断を許さず、かつての日常からは程遠い状況にある。ワクチン接種も始まったが、全てが元通りになるかはまだ分からない。この企画ではそんなコロナの時代でもできる旅行を2つ実践してみた。1つ目は一人旅。この状況下ではしづらい旅行だが、この機会を活かしてその良さを見つけていく。2つ目はお取り寄せグルメ旅行。各地の名産品を食べることで家にいながらも旅行気分を味わう。この2つの旅の様子をお届けします！

## 海を見に行く旅行



海が見たい。突然、そう思ったのだ。気づいたらお台場海浜公園にいた。時刻は夜8時。レインボーブリッジまで来ると、待ち焦がれていた海が見えた。夜の闇よりも深く、海は静かに揺れていた。安心する……。橋を渡りながら海を横目に歩いた。どうやら、レインボーブリッジは歩いても渡れるらしい。よし、こうなったらとことんまで歩こう。向こうには東京タワーが見えている。歩いて、歩いて、途中で行き止まりになった。あれ？ これどこに行けばいいんだ？ 橋のど真ん中で迷子になった私は、遊びに来ていたらしい男子高生らの集団に道を尋ねた。親切な少年たちは迷って歩き回っていた女子大生を最寄りの駅まで案内してくれた。橋を向こうまで渡ることはできないらしい。5、6人で夜のお台場まで来るなんて、ああ、青春だなあ。いいなあ。駅で別れた彼らが颯爽と駆けていくのを見届けながら、懐かしい青色の時代を噛み締めた。

## お一人様旅行

### 美術館 旅行



コロナ禍ではどんな旅行ができるだろう。感染しないためには人との接触を減らさない……。そうだ一人旅だ！ 「二人って寂しくない？」という意見もあるけど、せっかくなので一人旅の良さ、見つけてみませんか？

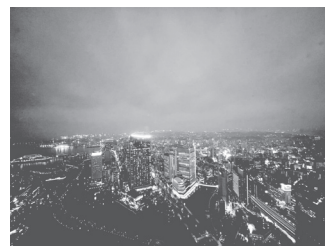
なんとなく美術館に行きたいなと感じた。自分にこんな感情が生まれることがあるのかと内心驚きながらも、さっそく上野の東京都美術館を訪れた。ちょうど「イサム・ノグチ 発見の道」展の時期である。彫刻は絵画よりも触れる機会が少なく、とつきにくいイメージがある。きつとみんなもそうで、来場者も多くないのではと楽観視していた。しかし、なにしろ雨の日曜日。施設は屋内。もう、人、人、だ。展示を見ているのか人を見ているのか。いや、私は芸術を感じに来たのだ、と自分に言い聞かせながら回る。はたから見たらただのかい石。だけどそれも芸術作品だ。やはり難しい。まあ今回は新しいものに接することができただけで大きな収穫だ。次はどこに行こう。

## 睡眠旅行



お金持ちになりたい、賢くなりたい、モテたい。様々な夢があるだろう。だが人間にとっても最も大切なことは至高の睡眠を得ることなのだ。お金持ちが金をかけるのは寝具だ、とネット記事にも書いてあったから間違いない。と、いうわけで私は睡眠旅行に行くぞ。まあお金ないんでデユースですけど。高級寝具のあるいいホテルを予約して、いざゆかん。睡眠のためにノンカフェインの紅茶を買い、岩盤浴にも入る。部屋にある2つのダブルベッドを寄せて、特大ベッドの完成！ とりあえず助走をつけて飛び込む。はー、広い！ 最高！ 大の字になってもまだまだベッドに余裕がある！ なんなら前転できる！ 快適すぎる……。睡眠に負けて目を閉じ、目覚めた時には2時間後。転がるだけのつもりがしっかり眠ってしまった。肩こりや腰痛がとれていく。この数時間でかなり健康になった気がする。これだけ満喫してもまだ5時間しか経ってないのか。まだチェックアウトまで時間あるし下界を肴に酒でも飲むかな。

## 神奈川旅行



神奈川って前から行きたかった場所が結構あるんだよね。よし、今度の全休に全部行くぞ。というわけで一人神奈川旅行スタート。まずはまぐろを食べに三浦半島の先端、三崎港へ。目的の店は「庄和丸」。雨降りの平日だからか店内の客はまばらで心地よい。注文した鮪三味御膳の刺身はどれも絶品。特に炙った大トロはこれまでで一番おいしかった。その後、宿泊場所である横浜ロイヤルパークホテルにチェックイン。地上59階の部屋から眺める横浜の夜景は、雨でぼんやりと輝き幻想的だ。景色を眺めながらのんびりと過ごし、1日目は終了したのだった。2日目は老舗「洋食キムラ」のハンバーグでお腹を満たし、川崎水族館へ。ここではピラニアとかアロワナとか、世界中の珍しい淡水魚がたくさん見られる。自分のペースでじっくり回れて満足だった。こうして2日間の自由気ままな旅行でQOLを高めることができたのだった。

# お取り寄せグルメ旅行

ここでは全国から名産品を取り寄せて、自宅で食べていくぞ！ 感染リスクはゼロ！ え？ こんな旅じゃない？ うるさいな。雰囲気さえ味わえれば実質旅なんだよ。

## 岡山

ままかりが届いた。酢漬けの魚は柔らかく、骨まで食べられる。魚なのに身をほぐさなくていいなんて最高じゃないか。口に入れると程よく酸っぱい。元気が出る味だ。お酢のおかげか臭みが少なく、魚の旨味だけを楽しめる。味付けがしっかりしているの、米と合わせて食べても味が薄れることはない。それどころか、甘みが加わって最高のバランスになる。すごい。瀬戸内海にはこんな魚が泳いでいるのか。これは海賊が出るのも納得だ。



## 愛媛

愛媛県の郷土料理、鯛めしがやってきた。冷凍状態で届くが、流水解凍で5分しかかからないという。このお手軽さは素晴らしいね。さっそく、タレや刺身など諸々を解凍。タレに生卵を割って入れる。そこに鯛の刺身を漬け、ご飯にかけて食べる。おいしい〜。歯ごたえのある鯛に特製のタレが絡まり、非常に美味。どんどんど飯が進み、あつという間にたいらげてしまったよ。ごちそうさま。シェフを呼んでくれないか。



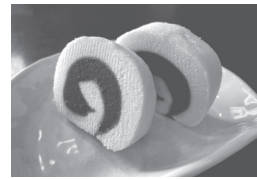
## 香川

私が今夜いただくのは、讃岐うどんである。太麺と細麺が注文時に選べ、私は太麺をチョイス。茹で時間はけっこう長い。10〜15分。焦らしてくるとは高度な技を……！ 茹で上がりはツヤツヤしていて、とってもおいしそう。口に入れるとつるつとした感触。コシもある。温泉卵をのせると、卵のまろやかさが麺の美味しさを倍増させる。ただ、つゆはついていない。ものぐさの私にとってはあった方が良かった。



## 愛媛

口の中にほんのり広がる柚子の風味と優しいあんこの甘さ。それを柔らかいスポンジ生地が包み込む。一六タルトは柑橘王国、愛媛県の銘菓だ。某ウィルスが全世界を侵略する前、僕は四国旅行で一六タルトと出会った。忘れもしないあのおいしさ、それは自宅に居ながらも同じである。その爽やかで優しいお菓子を頬張った瞬間、僕の心は自宅を遠く離れ、どこまでも広がる瀬戸内の青空の下にいた。



## 鹿児島

鹿児島から取り寄せた「上等梅酒」。金賞をいくつもとっていることから、その名に恥じない上等な梅酒が期待される。口にすると、強い果実感。ブランデー梅酒だからだろうか。そして梅の果肉の味が口いっぱいに広がる。脳天まで突き上げる梅の味。酸味は感じない、まさに梅の「ここだけ味わいたい」を体中に行き渡らせる感覚だ。後味は梅酒に漬けた梅をつまみ食したときの味がする。やばい。無限に飲める。



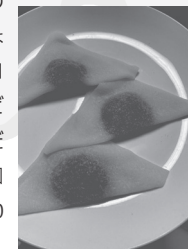
## 北海道

北海道の海の幸といえば、ウニ。今回取り寄せたのは、うに屋むらかみの「無添加生うにお得用バラ詰め」だ。味は一級品なのに、大きさや色が揃いなため比較的安価で購入できる。しかしウニの品種を選ぶことはできず、キタムラサキウニとエゾバフンウニのどちらが届く。うちに届いたのは前者だった。まあどっちでもいいや。味は淡白なものの、甘く、身がしっかりしていて、なかなか飽きがこない。北海道には行けなかったが、なんか北海道にいるような感覚にならなくても良かった。



## 京都

私が取り寄せたのは、京都八ツ橋の老舗「夕子」が手がけるチョコレート八ツ橋だ。「餡の代わりにチョコが入っているだけじゃん」と侮るなかれ。メチャメチャおいしいからな、コレ。八ツ橋の大人の味わいとチョコの甘さの二部合唱。従来の京都のハーモニーからはちよいと外れているが、一口食べれば伝統や格式などに留める暇もなくなるだろう。ちなみに1箱10個入りだが、私はものの10分で食べ終えた。



## 北海道

箱を開けると色んな味のお菓子。北海道にはなんとたくさんのお菓子があるんだろう。チョコレートにほたて、じゃがいも、とうきび。そういえばここ数日、私は他の甘い子たちを我慢していたみたいだ。いちごにチョコがかかったやつを思わず口に入れる。甘い。まさに今の気分。しまった……勢い余って写真を撮りそねた。ごめんささい。少し減っても、まだまだこんなに楽しめる。今日もまた、笑みがこぼれ落ちる。

